

令和8年度 学校評価書(共通) 前期

校名 宇和島市立三間中学校

1 自己評価書

教育目標	力強く夢に向かう生徒の育成					
基本方針	確かの学力の定着、特色ある教育活動の推進、地域とつながる学習と活動の充実					
本年度重点目標	1 豊かな心・健やかな体 2 確かな学力の定着と向上 3 学校・家庭・地域・行政が一体となった教育					
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
確かな学力の定着と向上	①	全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	各調査の分析結果を基に、「身に付けさせたい力(学習の目標)」の明確化を図り、組織的に推進することができた。	・分析資料の作成 ・具体的な対策の実施		後期のみのみ
	②	授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向け、授業モデル「N見方・考え方を変える」を視点に授業改善に努めた。	・教師アンケート	A	B
				・保護者アンケート	C	
				・児童生徒アンケート	B	
			文章を正確に読み取る、情報を整理・活用するなど読解力の育成に努めた。	・教師アンケート	C	B
				・児童生徒アンケート	A	
				・児童生徒アンケート	A	
	③	家庭学習の充実	家庭との協働により、授業と連動させた家庭学習の充実に努めた。	・教師アンケート	D	C
				・保護者アンケート	D	
				・児童生徒アンケート	A	
	④	読書活動の充実	読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行った。	・教師アンケート	D	D
				・保護者アンケート	D	
				・児童生徒アンケート	C	
	⑤	ふるさと学習及びESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする児童生徒の育成に努めた。	・教師アンケート	C	C
				・保護者アンケート	C	
				・児童生徒アンケート	A	
(成果と課題)						
・今年度から端末が替わり、使い方を模索している中でも、「ICTを活用した授業改善」の項目で、生徒からの評価が高かった。						
・基本的な学習の定着ができています。						
・「読書活動の充実」項目の肯定率が、生徒・保護者・教師ともに低い。						
・根拠をもって自分の意見をまとめる力が弱い。						
(改善策等)						
・学力向上推進主任と朝の活動の内容を検討したり、生徒会と連携して、読書に関する取組を実施したりするなどして、読書への関心が高まる工夫を模索していく。						
・行事等で自分の意見をまとめて発表する場を設定したり、事前指導を丁寧に行ったりする。						
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
生徒指導の充実	①	規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A A A	A
	②	児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。	・教師アンケート	A	A
				・保護者アンケート	B	
				・児童生徒アンケート	A	
			不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして不登校対応に取り組んだ。	・教師アンケート	A	A
				・保護者アンケート	B	
				・児童生徒アンケート	A	
	③	関係機関との連携	スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、こども支援教室わかたけ等の積極的な活用を心掛けた。	・教師アンケート	C	B
				・保護者アンケート	B	
				・児童生徒アンケート	A	
	④	自己肯定感 等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った(自分にはいいところがある)。	・教師アンケート	A	B
				・児童生徒アンケート	A	
			自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・教師アンケート	C	
				・児童生徒アンケート	B	
	(成果と課題)					
	・生徒指導だよりや教師からの声掛けの機会を増やすことで、規範意識が定着していると感じる。					
・指導により、落ち着いて話を聞くことができるようになった。						
・善悪の判断できずに、軽率な行動をしてしまう生徒がいる。						
・自己有用感が低い生徒が多い。						
(改善策等)						
・学年集会等で繰り返し指導をしていく。						
・生徒自身が自分の行動を振り返る機会を学期末に偏るのではなく定期的に作り、教師もその機会に生徒の頑張りを賞賛する。						

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価
働き方改革	①	ワーク・ライフ・バランス	時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指し、校内で設定した業務改善施策を基に、組織的な働き方改革（ワーク・ライフ・バランスの向上）に努めた。	・教師アンケート	C	B
			・「出勤・退庁調査」の分析と活用	B		
	②	働きやすい環境づくり	「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。	・教師アンケート	A	A
			休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート	B	B
	③	他の教職員のサポート体制の充実	教職員同士が仕事を手助けしたり、スクールサポートスタッフ、地域人材などを積極的に活用したりして、職場の仕事のサポート体制が充実した。	・教師アンケート	A	A
	(成果と課題) ・行事等の反省を生かして、行事予定の調整を行い、勤務時間の短縮につなげることができた。 ・若手の教員ほど、時間外勤務時間が多い傾向にある。					
	(改善策等) ・若手教員を育てていく意識を学校全体で共有し、サポートを継続していく。					
評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価
地域との連携	①	学校運営協議会の活性化	全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた（校内体制）。	・教師アンケート	A	A
			学校運営協議会・地域学校協働活動の活性化（地域・保護者へ）を図り、熟議等の結果を基に、地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート	B	
				・保護者アンケート	B	
				・地域アンケート	A	
	②	情報発信	家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・教師アンケート	C	B
				・保護者アンケート	A	
				・地域アンケート	A	
	③	来校・相談体制	来客・電話対応を丁寧に行い、保護者や地域の方々の声をしっかりと聞くことで、来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート	A	B
				・保護者アンケート	C	
				・地域アンケート	A	
(成果と課題) ・学校運営協議会では、生徒や教師を交えた熟議を多く設定し、新しい取組も生まれた。 ・情報発信の教師の評価が低かった。						
(改善策等) ・負担にならない範囲で、通信等を出すように働き掛ける。						

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満